

“SCIP2_Command_Test.exe”取扱説明書

注意事項：

センサ本体や周辺機器の故障を未然に防ぐために、本書をよくお読み下さい。
本ツールを使用したことによって発生したいかなるトラブル・損害にも、弊社は一切の責任を負いません。修理の依頼は受け付けますが、有償となりますのでご注意ください。

はじめに

本書は、北陽電機社製測域センサ URG-04LX 用 SCIP2.0 動作チェックツールである
“SCIP2_Command_Test.exe” の取扱い方について述べたものです。

- ・本ツールをお使いになる前に…
 1. 測域センサは SCIP2.0 対応の最新ファームウェアにアップデートを行って下さい。
 2. “URG-X002S”用の SCIP2.0 対応ファームウェアは準備しておりませんので、本ツールも非対応としております。
 3. 測域センサの通信仕様書など、関連のドキュメントをよくお読み下さい。
 4. 本ツールの対応 OS は “Windows XP” のみとします。
 5. その他、最新の情報やドキュメントは弊社サイト(<http://www.hokuyo-aut.co.jp>)に随時アップしますので、定期的にご確認ください。
 6. 本ツールに関するお問い合わせは下記までお願いします。
(連絡先 : 技術部・川田:kawata@hokuyo-aut.co.jp または06-6394-2331[代])

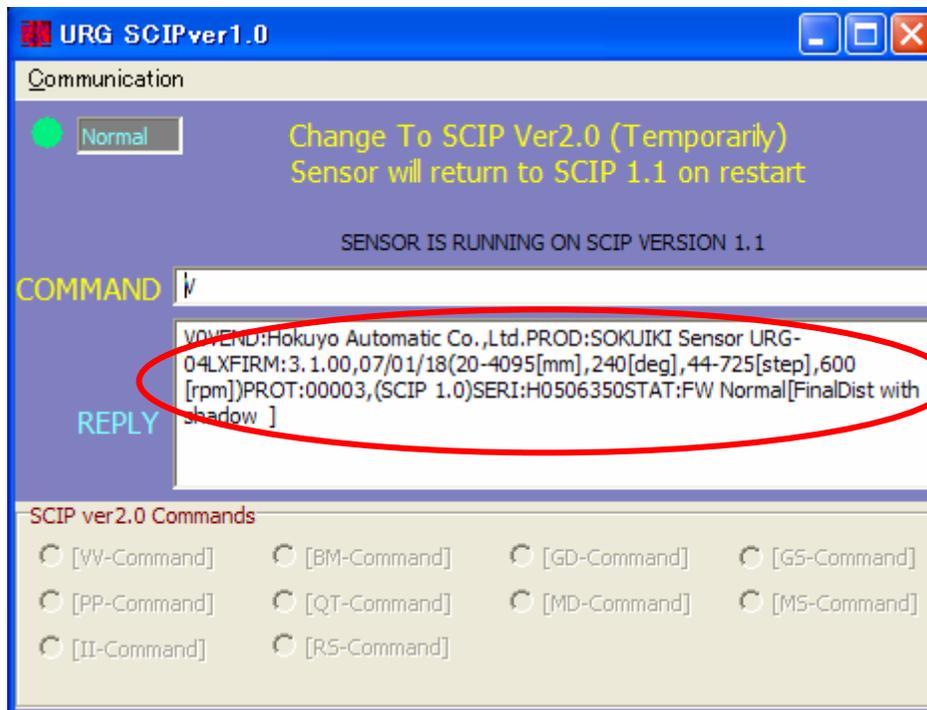
使用方法

1. “URG-04LX”または“URG-X003S”と PC を、USB または RS232C で繋いで下さい。
2. センサの電源を入れて下さい。
3. 本ツールをセンサが接続された PC の任意の場所から起動して下さい。
4. 本ツールは、自動的に PC に繋がれたセンサを検索し、接続します。

Note:

センサが複数台接続されている場合、各センサが確保している COM ポート番号の中で最も若い番号をもつセンサに接続します。

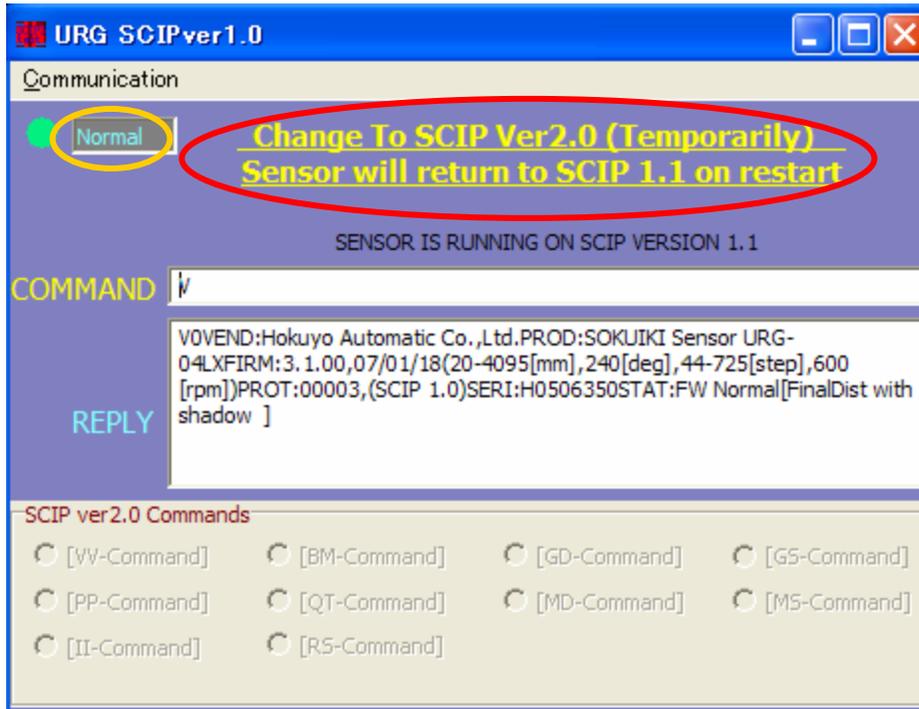
5. センサに接続すると、下図のようにセンサ情報を“REPLY”ウィンドウに表示します。



Note:

センサ、あるいはセンサのファームウェアが **SCIP2.0** 対応でない場合は、その旨を表示します。この時は、センサの型式をチェックするか、ファームウェアのバージョンを確認し、必要に応じて最新ファームウェアへアップデートして下さい。

6. センサ、センサファームウェアともに **SCIP2.0** 対応ではあるものの、その時点では **SCIP1.1** 対応プロトコルで動作している場合、一時的に **SCIP2.0** 対応プロトコルでの動作モードに切り替える必要があります。本ツールではその状態も認知して、下記のようにモード切替を促すメッセージが現れます。切替を行う場合は、そのメッセージをクリックして下さい。



Note1:

この場合、切り替えは一時的に有効となりますので、センサの電源を入れ直すと **SCIP1.1** 対応プロトコル動作モードに戻ります。

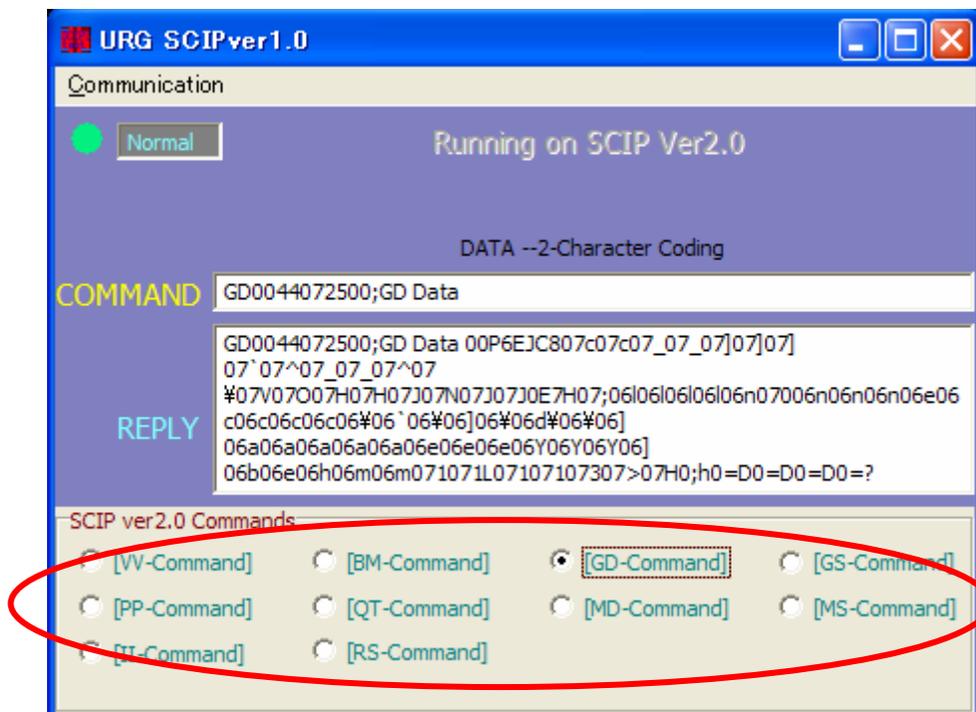
Note2:

センサがすでに **SCIP2.0** 対応プロトコル動作モードで動作している場合はこれらのメッセージは出ませんので、次に進んで下さい。

Note3:

通信エラーにより、黄色○部分のステータス表示が **“Running”** のまま変わらない場合があります。この時は本ツールを再起動して下さい。

7. SCIP2.0 のコマンドをテストするために、ウィンドウ下部にある各コマンド文字をクリックして下さい。本ツールは選択されたコマンドをセンサに送信し、センサからの応答を“REPLY”に表示する、を別コマンドが選択されるまで繰り返します。



Note1:

各コマンドは、センサが **SCIP2.0** 対応プロトコル動作モードで動作している時のみアクティブとなります。

Note2:

SCIP2.0 の仕様に従い、**MD** コマンドと **MS** コマンドが選択された時は **QT** コマンドと **RS** コマンド以外は非アクティブとなります。

8. テストが終了したらウィンドウを閉じて本ツールを終了させて下さい。

Note:

“**MD**”と“**MS**”の両コマンドを選択時は“**QT**”か“**RS**”コマンドを一度選択してから終了させて下さい。そうしないと、終了後もセンサはデータを出力し続けます。(センサ電源 OFF でも止まります)

---以上---